

令和5年 3月 3日

福岡県教育委員会教育長 殿

所属校名 朝倉市立福田小学校
職・氏名 教諭 長井 瞳
指導者名 教諭 坂牧 淳

研 修 最 終 報 告 書

このたび、長期派遣研修員として、下記のとおり研修をしましたので報告いたします。

記

- 1 研修種別 C 福岡教育大学附属福岡小学校研修員
- 2 研修場所及び所在地 福岡教育大学附属福岡小学校
〒810-0061 福岡市中央区西公園 12 番 1 号
TEL (092) 741-4731
FAX (092) 741-4744

3 研究主題及び副題

読む楽しさを深める特別支援教育国語科学習

～「演じる・見る・伝える」を位置付けた活動構成を通して～

4 研究内容の概要

(1) 主題の意味

読む楽しさとは、物語に出てくる言葉のリズムや一部分の出来事の面白さ、登場人物の好き嫌いなど、自己の経験を基にした物語の部分的な面白さを感じることである。

読む楽しさを深めるとは、想像力を働かせながら、場面の様子、登場人物の行動や心情など、物語のつながりや自己の解釈を基にした面白さを感じることである。「想像力」とは、自分が経験していないことや現実には存在しないことを、頭

の中で思い浮かべる力のことである。広瀬(2002)は、想像力は記憶と緊密に結びついている「再生的想像力」と過去経験の要素から新しい状況や行動を新たに生み出す「創造的想像力」があると述べている。知的障害のある子供は、学習で得た知識や技能が断片的になりやすい特性や、自分の経験や生活を基に身の周りの出来事を捉える特性がある。そのため、生活経験により既に捉えていることと創造的想像力を関連させて働かせ、物語を読み深めていくことでより物語のつながりや解釈を基にした楽しさを感じることができると考える。子供の自立や社会参加をめざして周りの人との関わりの中で意思や意見等を伝えながら生きていくことができるようになる上でも価値があると考え。

そこで、本研究では、以下のような子供の姿を目指す。

- 絵本や易しい読み物などの読み聞かせや音読、劇づくりを通して、言葉の響きやリズム、登場人物の行動、場面の变化に気付くことができる子供 (知識及び技能)
- 登場人物の行動や場面の様子について、登場人物の動きや表情、口調、行動の理由、場面の様子等を想像しながら読むことができる子供 (思考力、判断力、表現力等)
- 友達と関わりながら活動に取り組み、繰り返し同じ本を読んだり様々な本を読んだりしたいという意欲をもつことができる子供 (学びに向かう力、人間性等)

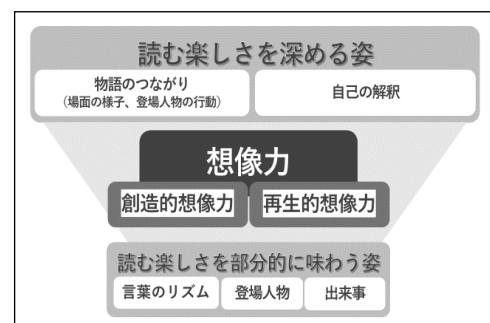


図1 読む楽しさを深める子供

(2) 副題の意味

「演じる・見る・伝える」とは、物語の登場人物になりきり、その様子を動画で視聴し、演じた意図を言語化する一連の営みである。

演じるとは、物語に書かれている挿絵や文章を基に登場人物の行動を動作や台詞として表現することである。登場人物に同化することでその様子を動画のようにイメージして、物語の文章の意味を捉えることができる。見るとは、登場人物を演じる自分と友達の様子を撮影した動画を異化の視点でその場で視聴することである。伝えるとは、物語の文章や挿絵、「見る」で見た動画を基に登場人物の動きの意図や台詞について言語化することである。動きや台詞として表現した根拠を説明することで、自己の解釈の深化を図ることができる。「演じる・見る・伝える」活動を位置付けた活動構成とは、一単位時間の展開段階において「演じる・見る・伝える」を繰り返し行うことである。この3つが一体となった活動を何度も繰り返し行うことで、物語の内容の把握や解釈の深化を図ることができる。と考える。

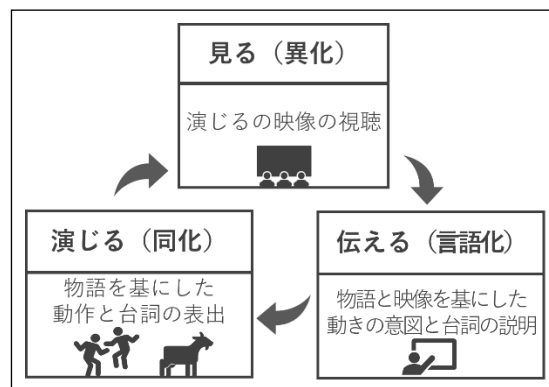


図2 「演じる・見る・伝える」活動

(3) 仮説実証のための着眼

ア 想像を広げ解釈を深めるための単元構成

導入段階では、劇で表現する絵本を選ぶために身近な相手に対して好きな絵本の種類のアンケートをとったり、登場人物に着目して絵本を選んだりする活動を設定する。劇の表現をよりよくしたいという目的意識や身近な相手を楽しませたいという相手意識をもつことができるようにする。展開段階では、「演じる・見る・伝える」活動を繰り返し設定する。展開段階前半は、物語の文章通りに動きや台詞に表現する活動を設定し、展開段階後半に学習が進むにつれて物語の文章には記されていない行間の動きや台詞を考える活動を設定する。終末段階では、絵本を読み深めた満足感を感じることができるようするために、絵本を紹介する時間や劇の発表会、関連する他の絵本を選ぶ時間を設定する。紹介文や劇の完成から達成感を得たり、発表した相手から感想を受けて成就感を得たりすることができる。と考える（表）。

表 想像を広げ解釈を深めるための単元構成

	導入	展開1	展開2	終末
子供の活動	アンケート 絵本選び	物語のとおり 劇づくり 「演じる・見る・伝える」活動の設定		絵本の紹介 劇の発表会等
子供の姿	「楽しい劇をつくりたい！」 相手意識 目的意識をもつ	「小さい声と書いてあるから 小声で話すよ」 内容を把握する	「勝ってほしいから『がんばれ!』と応援するよ」 自己の解釈を深める	「相手が楽しんでくれてよかったね」 達成感・成就感を得る

導入段階では、劇で表現する絵本を選ぶために身近な相手に対して好きな絵本の種類のアンケートをとったり、登場人物に着目して絵本を選んだりする活動を設定する。劇の表現をよりよくしたいという目的意識や身近な相手を楽しませたいという相手意識をもつことができるようにする。展開段階では、「演じる・見る・伝える」活動を繰り返し設定する。展開段階前半は、物語の文章通りに動きや台詞に表現する活動を設定し、展開段階後半に学習が進むにつれて物語の文章には記されていない行間の動きや台詞を考える活動を設定する。終末段階では、絵本を読み深めた満足感を感じることができるようするために、絵本を紹介する時間や劇の発表会、関連する他の絵本を選ぶ時間を設定する。紹介文や劇の完成から達成感を得たり、発表した相手から感想を受けて成就感を得たりすることができる。と考える（表）。

イ 「演じる・見る・伝える」活動の設定

内容を把握することや自己の解釈を深化させることができるようにするために、登場人物を演じて同化し、その様子を撮影した動画を視聴して（異化）、2つの観点（①動きの意図、②台詞）を基にどのように演じるのか言語化する活動を一単位時間内に設定する。1回目は登場人物の行動を実際に動いて表現する。2回目は内容の理解や解釈を深めるために、場面を焦点化して動きを創作する。3回目は創作した動きを基にして台詞の創作を行う。一単位時間の「演じる・見る・伝える」活動の中で、初めに物語を読んだ時に比べ、場面の様子や登場人物の行動をより具体的に想像したり、意図をもって動きや台詞として表現したりすることができる。と考える。

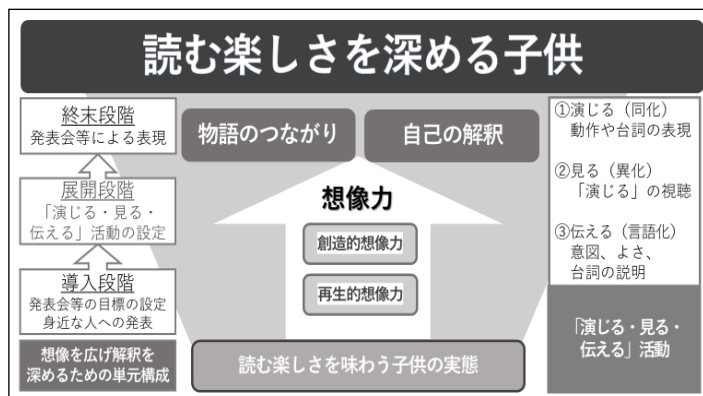


図3 研究構想図

(4) 指導の実際（9月実証）

ア 単元名 第5・6学年梅組 楽しい絵本をげきにしよう「三びきのやぎのがらがらどん」

イ 単元の見目標

- 読み聞かせや音読を通して、いろいろな絵本があることを知ったり、擬音語等の言葉の響きやリズムに気付いたりすることができる。 (知識及び技能)
- オリジナルの劇づくりを通して、登場人物に着目して読み、登場人物の行動や心情、場面の様子を想像することができる。 (思考力、判断力、表現力等)
- 友達と関わりながら活動に取り組み、繰り返し同じ本を読んだり様々な本を読んだりしたいという意欲をもつことができる。 (学びに向かう力、人間性等)

ウ 計画 (10 時間)

- (ア) アンケートをとったり絵本を読んだりして劇の内容を決める。————— 1 時間
- (イ) 場面ごとに登場人物の動きや台詞を想像し、オリジナルの劇づくりをする。————— 6 時間
- (ウ) ふじ組を招待し、オリジナルの劇の発表会を行う。————— 3 時間

エ 単元の仮説

第5・6学年梅組「楽しい絵本をげきにしよう『三びきのやぎのがらがらどん』」の学習において、次の手だてを行えば、登場人物の行動や場面の様子を想像して読むことができるであろう。

- 想像を広げ解釈を深めるための単元構成【着眼ア】
- 「演じる・見る・伝える」を繰り返す活動構成の設定【着眼イ】

オ 指導の実際

本学級は5年生1人、6年生2人からなる特別支援学級である。6年生のB児は、休み時間に絵本を読むことが好きである。しかし、音読することに集中しているため、棒読みになったり、絵を見ずに文字を読み進めたりする。

(ア) 導入段階 (1/10 時間)

導入段階では、相手意識と目的意識をもって絵本を読むことができることをねらいとした。そのために、ふじ組へのアンケート (好きな絵本について) を取る活動を設定した (資料1)。さらに、子供たちが自ら選んだ絵本で劇をつくることができるようにするために、教師が選定していた数冊の絵本から劇にする絵本を選択する活動を設定した。子供たちは、登場人物の「3人」という人数に着目し、「三びきのやぎのがらがらどん」を選んだ【着眼ア】。



資料1 ふじ組にアンケートをとる様子

考察1

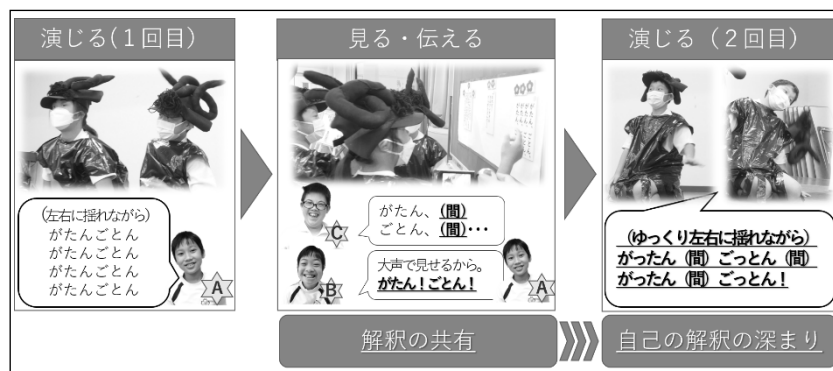
導入段階において、資料1のように「ふじ組は登場人物が動物である絵本が好き」というふじ組の回答と「梅組の3人で劇にできる話」という視点を基に「三びきのやぎのがらがらどん」を劇づくりの絵本として選ぶことができた。絵本を読むための目的意識を明確にもたせた上で、登場人物に着目して絵本を選ぶ活動を設定したことは、友達と関わりながら活動に取り組み本を読みたいと意欲をもったり、物語の設定に着目したりすることができるという上で有効であったと考える。それは、一単位時間の導入段階において、B児が「ふじ組に劇を見せるために3人で協力してがんばる。」「発表会が楽しみです。」と繰り返し発言していた姿から分かる。

(イ) 展開段階 (2～7/10 時間)

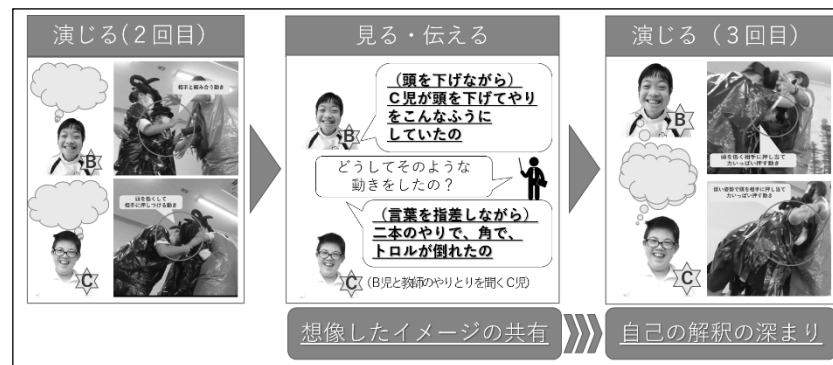
展開段階では、オリジナルの動きや台詞を考え、場面の様子や登場人物の行動を想像することができることをねらいとした。そのために、「演じる・見る・伝える」活動を繰り返し設定した【着眼イ】。1回目の活動は、内容の把握 (大きいやぎが橋の上で叫ぶこと、トロルを倒すこと) をねらいとした。2回目以降の活動は、解釈を深めることをねらいとした。

考察 2

展開段階において、3匹のやぎの中で一番大きい声を出して演じたり、大きな動きで橋を渡ったりする根拠を話したりする姿が見られた。「演じる・見る・伝える」活動を繰り返し設定したことは、登場人物の行動や場面の様子を想像する上で有効であったと考える。それは、「伝える」において、B児とC児がA児の「がたん、ごん」の解釈を共有し、A児の動きと話し方が変容した姿から分かる(資料2)。また、B児がC児の動きを称賛したり動きの意図を言語化したりしたことによって、B児とC児が想像したイメージを共有し、二人の動きも変容した姿から分かる(資料3)。



資料2 「伝える」の後に変容したA児の動きと発言



資料3 「伝える」の後に変容したB児とC児の動き

(4) 終末段階(8～10/10時間)

終末段階では、展開段階で場面ごとに創作していたオリジナルの劇の内容で、配役を3人で分けて物語全体を通して演じたり、ふじ組を招待して劇の発表会をしたりする活動を設定した【着眼ア】。この活動により、繰り返し劇づくりをすることが楽しかったという満足感や劇を完成させた達成感、ふじ組を楽しませることができた成就感を得ている姿や発言が見られた。

考察 3

終末段階で、資料4のように、配役を3人で分けた劇をしたり、ふじ組を招待した発表会をしたりしたことは、友達と関わりながら活動に取り組み、繰り返し同じ本を読みたいという意欲をもつ上で有効であったと考える(資料4)。それは、小さいやぎから大きいやぎまで、動きに特長を出しながら演じるB児の姿や、「ふじ組に『かわいかった』と言ってもらえてよかった」「(劇を) もう1回やろう」と発言するB児の姿や休み時間にすすんで「三びきのやぎのらがらどん」の絵本を読む姿から分かる。

カ 全体考察

本実証で読む楽しさを深める子供の姿とは、登場人物の行動や場面の様子を想像して、叙述や絵を根拠に解釈する姿であった。資料2・3では、B児の言語化によって、B児本人とA児とC児の動きが変容した姿が見られた。これは、大きいやぎの行動を想像し、大きくて強い口調で話していると解釈したり、C児の動きを見たことで二本の角をトロル役の教師に押しつける動きを想像したりしていたためと考える。したがって、読む楽しさを深める上で、「演じる・見る・伝える」活動は有効であったことがわかる。しかし、オリジナルの台詞の創作があまりできなかった。これは、動きの創作と台詞の創作は、子供にとって別物だったからだと考える。課題は、台詞の創作をするために、動きの創作を十分行った上で場面を焦点化した活動を設定することである。



資料4 劇の発表会と感想を聞くB児の様子

(5) 指導の実際（12月実証）

ア 単元名 第5・6学年梅組 オリジナルげきをつくろう「三びきのねこ」

イ 単元の見目標

- 読み聞かせや音読、劇づくりを通して、擬音語等の言葉の響きやリズム、登場人物の行動、場面の移り変わりに気付くことができる。（知識及び技能）
- 登場人物の動きや台詞の話し方を表現することを通して、登場人物の行動や場面の様子の想像を広げることができる。（思考力、判断力、表現力等）
- 友達と関わりながら活動に取り組み、繰り返し同じ本を読んだり様々な本を読んだりしたいという意欲をもつことができる。（学びに向かう力、人間性等）

ウ 計画（10時間）

- (ア) 劇づくりの依頼を基に絵本を選び、単元の計画を話し合う。—————1時間
- (イ) 場面ごとに登場人物の動きや台詞を想像し、オリジナルの劇づくりをする。—————6時間
- (ウ) 劇の練習や準備をして、劇の発表会を催す。—————3時間

エ 単元の仮説

第5・6学年梅組「オリジナルげきをつくろう『3びきのねこ』」の学習において、次の手だてを行えば、登場人物の行動や場面の様子について想像を広げて読む子供が育つであろう。

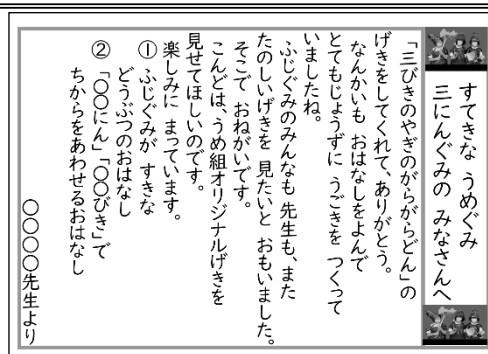
- 想像を広げ解釈を深めるための単元構成【着眼ア】
- 「演じる・見る・伝える」を繰り返す活動構成の設定【着眼イ】

オ 指導の実際

12月実証は、9月実証の課題である「台詞の創作」ができるよう、場面の焦点化をして動きの創作を行い、その部分の台詞の創作ができることをねらった。

(ア) 導入段階（1／10時間）

導入段階では、相手意識と目的意識をもって絵本を読むことができることをねらいとした。そのために、身近な相手から劇づくりと発表会開催の依頼をされるストーリーを設定した（資料5）。「3人が協力できる話」「相手が好きな動物」という人数や登場人物に着目し、「11 びきのねこ」を選び、「3びきのねこ」のオリジナル劇をつくることを計画した【着眼ア】。



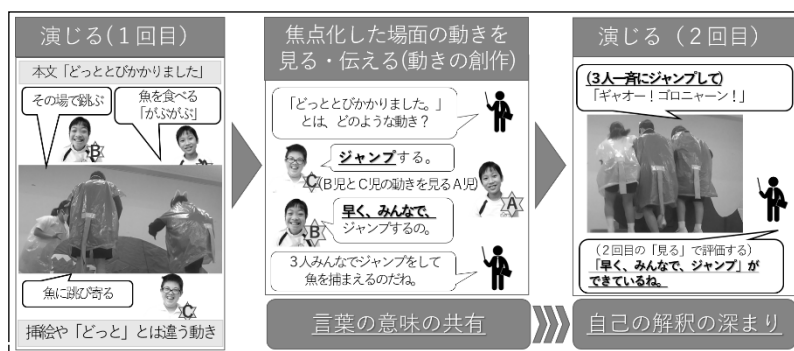
資料5 身近な相手からの依頼の手紙

考察1

導入段階において、資料5のように「〇人で力を合わせるもの」「登場人物が動物であること」という視点を基に「11 びきのねこ」を劇づくりの絵本として選ぶことができた。劇づくりを依頼される状況設定と登場人物に着目して絵本を選ぶ活動を設定したことは、物語の設定や内容に着目することができる上で有効であったと考える。それは、一単位時間の導入段階において、梅組の3人が「ふじ組が喜んでくれるような劇をつくる」と繰り返し発言していた姿から分かる。

(イ) 展開段階（2～7／10時間）

展開段階では、オリジナルの動きや台詞を考え、場面の移り変わりや登場人物の行動を想像することができることをねらいとした。そのために、「演じる・見る・伝える」活動を繰り返し設定した【着眼イ】。1回目の活動は、内容の把握（各場面の全文）をねらいとした。2回目は焦点化した場面の言葉を基に解釈



資料6 焦点化した場面の動きの変容

を深めることができるようにするために、「どっととびかかりました」はどのような動きか教師との応答を基に考えた(資料6)。3回目は台詞の創作ができるようにするために、動きながら台詞を問うたりその動きをしている映像を観たりしながら台詞を考えた(資料7)。

考察2

展開段階において、資料2のように、「どっととびかかる」動きを互いに見合ったり新たに知ったりして動きを変容させていく姿が見られた(資料6)。「演じる・見る・伝える」活動を繰り返し設定したことは、場面の様子や移り変わりを想像する上で有効であったと考える。それは、どの台詞をどこで言うのか捉えている姿や言葉に着目して動きを変容させようとした姿、場面にあった台詞を思いつく姿から分かる(資料7)。

(ウ) 終末段階(8～10/10時間)

終末段階では、物語全体を通してオリジナル劇の登場人物を演じたり、発表会をしたりする活動を設定した【着眼ア】(資料8)。この活動により、新たに台詞を思い付いて台本に付け加える姿や繰り返し劇づくりをすることが楽しかったという感想を発表する姿、身近な相手が喜ぶ様子が嬉しかったと発表する姿が見られた。

考察3

終末段階で、資料8のように身近な相手を招待して発表会をしたことは、友達と関わりながら活動に取り組んだり、繰り返し同じ本を読みたいという意欲をもったりする上で有効であったと考える。それは、進んで休み時間にオリジナル劇の台本の読み合わせをしたり、「11 びきのねこ」の絵本やそのシリーズの絵本を進んで読んだりする姿から分かる。

カ 全体考察

資料6・7では、子供の言語化より教師との応答を中心に言葉の意味を捉え直すことで3人の動きが変容した姿や動きから場面の様子にあった台詞を創作する姿が見られた。これは、「どっと」から想像されるイメージが広がり、「素早くみんなでジャンプする様子」だと解釈した姿、創造的想像でイメージした魚を捕らえる場面の様子を動きと台詞で表現することができた姿だと考える。

5 研究の成果と課題

(1) 成果

- 「見る」「伝える」において、自己や他者の動きを言語化することや動きを真似ることが創造的想像をするための要素となり、自己の物語の解釈を深める上で有効であった。

(2) 課題

- 「動き」の創作と「台詞」の創作は子供にとって別物である場合が多い。ごっこ遊びのように動きと台詞を区別せず自然に台詞を話すような場を設定する等、具体的な手立てを究明したい。

6 研修を終了しての感想

特別支援教育という教育の原点について学ぶ機会をいただきました。この学びを目の前の子供のために生かしたり、地域に発信したりしながら、今後も特別支援養育について学び続けたいです。

備考 ○ 在籍校と電話番号 朝倉市立福田小学校 TEL (0946) 22-2452



資料7 動きを基に台詞を創作する様子



資料8 劇の発表会と低学年の感想